町連協だより

第14号
平成15年12月1日
◆発行◆
千歳市町内会
連絡協議会
千歳市総合福祉センター
TEL(0123)27-2525
◆印刷◆
道央プリント
千歳市青葉6丁目1-8
TEL(0123)23-5535

「災害に強い町内会づくり」

〃平成十五年度町内会役員等研修会実施〃

☆研究テーマ☆

「災害に強い町内会づくり」

本年度の町連協の方針は、「明るく、楽しい、ふれ合いのある、安心して住めるふるさとづくり」を進めることであります。

平成九年度以来進めている町内会の自主防災組織づくりを推し進める努力をしていますが、最近の地震学会や政府の地震調査委員会の発表によれば近い将来、北海道にもM8クラス（阪神淡路大震災）の大きな地震が発生する確率が高いという研究結果を本年三月に発表しております。

また、阪神淡路大地震における町内会の自主防災組織が多くの人命を救ったという事実を学び、災害に強い町づくりを目指し実際に災害に遭われて多くの教訓を得て、災害防止に努力された虻田町自治会連合会長伊藤博さんと同事務局長猪股亜樹さんを講師として講演会を開催して、災害発生時における町内会の取り組みを研修するというものであります。

また、この研修の結果を、町内会に還元するとさらに意義があります。以下講演内容の概略を報告させていただきます。

最初OHP投影により有珠火山防災マップを提示しながら、山頂噴火危険予想図や山麓噴火予想図の説明を聞きながら、水蒸気爆発等の恐ろしさを再認識させていただきました。

更に、国道二十号線の地形の変化や地殻動、わかさいも工場の浮沈の様子、町営温泉浴場の汚泥の流入被害状況、町営住宅物置きの埋没、町営住宅五階建ての一階が地下に陥没、洗濯機や冷蔵庫等の泥まみれの様子、どれを見ても忍びない状況でありました。

避難状況は、家族の人が横になれるだけ、後はダンボール箱二個位おける広さで狭く、隣の人を気づかう余裕もない状態であったが、楽しく過す事が出来ました。

殺風景な避難場所をにぎにぎしくするために、町内の方々から鯉のぼりを提供していただき校舎の掲揚塔にあげ、志気を鼓舞しました。

激励会は二回程ジンギスカンを囲んでやっていただきました。

避難した住民は、一人ひとりが鉢巻きをしめ全員こぞって決起集会に参加しました。

団結を強める意図が湧いたのでしょうか。

仮設住宅は一棟四戸で入居者数が作られ、最小限の部屋数は確保され、プライバシーに配慮されたことに感謝していました。

警察官の人達は被害にあった国道を封鎖し、治安の維持に活躍していただき感謝しています。

しかし、新聞等でご承知だと思いますが、無人の住宅に空き巣が入り、現金やカメラ等が盗難にあいました。

日頃、貴重品は、まとめて保管し、避難する時は持って出ることが大切であります。

普段私達は、地震、雷、火事、親爺と言いますが、親父の権威がなくなりましたが、地震は恐ろしいものです。

昔から夜寝る時は、枕元に衣類、かばん、帽子を置くことを口うるさく言われたが、その事は今でも役立っています。

有珠山の噴火は明治四十三年、昭和十九年、昭和五十二年に噴火しています。

確かに、周期があり、二十五年か三十年に一度巡って来ます。

そろそろ地震が来そうなので、地震保険を掛けようと考えていた矢先に噴火しました。

思いついたら即日実行しなければ役に立ちません。

有珠山の火山は、平成十二年三月三十一日でしたが、前日の有感地震は九五〇回、地震や津波は来ると言われていました。

虻田町の周辺の学校や集会所、グランドは整備され、開発庁や東京消防庁にも、応援の人員や車両等の配置要請がなされていました。

町民は、火山活動がある事は、予想していましたし、い

つでも逃げれる準備をしていました。

北大の設置した地震計は泥流により破壊されるとして、すでに取り外されていました。

避難場所は幾度となく変り、四回も移動したと言う話を後で聞きましたが状況肥握が難しかったのでしょうか。

特にお年寄りは早期に避難をさせてくださいと声を大にして話されていました。

日中若い人は仕事に行き、年寄りや学校に行かない子供だけが残り、避難させる事が困難となり、車輌の数も少なく憂慮すべき事態になります。

町内会の福祉委員は対応が速く活動してくれました。

私は、社会福祉協議会で待機し、いかなる事態にどう対応するかを考えていました。

たびたびの避難場所の変更に当惑しながら、豊浦町に行きましたが、満員ですと断わられ礼文華に行くことになり、一層不安な気持になりました。

逃げるために乗用車は毛布等でびっしり、その中にあわてて薬袋を入れたが、現地について見当たらず、救急医療施設で診察を受け、投薬を受け取ることができました。

道新の報道によると火山帯にある大沼の駒ケ岳、十勝岳、樽前山、雄阿寒岳等は要注意と言われていますが、駒ヶ岳を有する森町は、震災前から想定して、対策担当者がきめられ活動されているとのこと、これこそ「備えあれば憂いなし」ではないかと痛感しました。

災害は、自治会役員、福祉委員の協力が必要であり、その成果は日常の訓練がどのように行われているかが大切であります。

避難所から他の場所に勝手移動してしまい、名簿上はいるのですが、見舞に来てくれた人に会わせることが出来ませんでした。

★災害に強い町内会づくり★

有珠山火山災害に学ぶ

●研修会に参加して●

白樺町内会

会長　塚本義孝

突然予告なしにやって来て、甚大な被害をもたらす大災害!!

災害とは、市民生活の安全と財産を喪失することである。

今般の講師をつとめられた伊藤自治会連合会長の体験談は、想像を絶する火山噴火の恐ろしさ、そして自治会活動の実際の活動、また、日頃の災害に備えることなど、実に多くの教訓を与えてくれました。

特に、災害発生時の初期活動は極めて重要なファクターであることを再認識させられ、これらの対応は、地域の「自主防災会」等の役割が最も重視されるところであると痛感した次第です。

避難所での激励のジンギスカン、町民の決起集会、避難後の治安、防犯対策など、実にきめ細かく適切な対応ぶりは大変に参考になりました。

今後益々高齢化、核家族化が進む中で、地域住民が一体となって災害に果敢に対応できる組織づくりは必須のものと実感した次第です。

●防災研修会に参加して●

新富西町内会

会長　吉成正雄

伊藤虻田町連合会長さんの講演終了後、同会の猪股事務局長の話の中からボランティアの人々にそれぞれ差のあることを知らされたことでありました。特に避難民の中に入り宗教等を説いて歩いた者がいたことであります。

避難者の不安を利用した悪辣な行為ではないでしょうか。

又、情報を得て避難者の家に侵入し、金品などを盗む者がいたと聞かされ本当に残念な思いがしました。

今後災害が生じた際にはボランティア活動家の協力を得られることは喜ばしいことでありますが、それぞれのパターンがあることを認識し、登録は勿論の事種々気配りが必要であることを痛感しました。ボランティアの人々には短期、長期とあり、しかも労動系、技術系とあり、部署、担当等各種に亘り詳細に対応しなければならないものと思われます。

千歳市はまだ災害の体験がなく誰もが慌てふためくものと思われますが、冷静沈着に行動し、一人でも多く幸せを失わないように常日頃考える者の一人です。

★千歳市動物愛護モラル推進委員決まる★

少し聞きなれない名称ですが、標記のような推進委員が選出されました。

市の条例として制定されたのです。その目的は、動物の適正な取扱いを推進し、市民の動物愛護の気持を高めたい、又、動物の取扱いにより、市民に迷惑をかけないようにしたい。言わば、犬猫等の飼主に、モラルを持ち適正に管理していただきたい。という主旨です。

推進委員は、動物の適正な飼育、飼主のモラル向上に対しての助言や支援を担う役目です。

学校区(地区)	推進委員名
千歳小	茶立　勉
北栄小	寺島一彦
末広小	樽井輝樹
緑　小	大野知之
千歳第二小	力示武文
日の出小	清水　清
信濃小	田口軍治
高台小	阿南章夫
祝梅小	佐々木昌介
桜木小	伊藤栄太郎
向陽台小	塚原義孝
北陽小	畑中　盛
泉沢小	北村　功

◎よろしくお願いします。

町内会のご紹介

会員と親睦

末広西町内会
会長　塚本一雄

末広西町内会は昭和三十七年四月に当時の末広地区の人口増に伴う住宅地確保のため地域変更に伴い、稲穂花園末広地区を一丁目から三丁目まで末広東町内会、四丁目から六丁目まで末広中町内会、七丁目と八丁目を末広西町内会として発足しました。以来住み良い町内会づくりを目指し、役員並びに会員の皆さんが活躍しています。毎年六月下旬泉郷小原農園に「イチゴ狩り」を実施し家族共また高齢者が参加し好天のもと野外ジンギスカンパーテーが始まり程よく飲んで食べて会員相互の親睦は広がります。

作今、少子高齢化と共に年間様々な行事を行っています。例年五十名以上出席する新年交礼会を始め、敬老会、環境整備事業として町内一円に亘る春と秋の大掃除、毎月第三日曜日の会員及び役員の各戸を回っての資源回収の実施、パークゴルフ同好会、カラオケ同好会等と参加を呼びかけ積極的に進めております。

今後少子高齢化社会が深刻化する中、地域の役割もより重要と考えます。

最後に各町内会の益々ご発展と会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『夏祭り』は全役員参加を合言葉に楽しく愉快に盛り上げる

北斗北町内会
会長　中野次男

始めに、吾が町内会発足に付いて紹介させて戴きます。北斗北町内会は、昭和五十八年夏に青葉丘南より航空機の騒音被害の激甚地域に指定されて、防衛施設庁の移転計画に伴う集団移転の対象となり、昭和五十八年十二月迄に五十世帯程集団移転をしてきました。

その翌年五十九年から六十一年頃迄に百世帯程に増え、現在平成十五年には百六十五世帯と増え、五丁目と六丁目を合わせて北斗北町内会と称して発足しております。

さて、町内会活動で青少年部が一年を通して大変なご苦労があったと思った。

「夏の盆踊り」「子ども神輿」「ラジオ体操」「緑のキャンプ」「クリスマス」と青少年部長のなり手がいないのが何年か続いた。総会が終り二ヶ月程しないと部長が決まらない状態が続いた。

そこで、総会で会長が提案決断をした、青少年部の行事から「盆踊り」「子ども神輿」は行事の任務から除外する。

町内会役員が会長及び総務部長中心に「夏祭り」と言うことで参加する。青少年はそれには協力参加に方向転換をした。それからは、子ども盆踊り、花火大会、パークゴルフ、ホー引(抽選会)カラオケ、及び屋台焼鳥、生ビール、フランクフルト、綿あめ等には役員が誰かが二、三名配置して盛会に終了した。

平成十四年度は二日間天候も恵まれ、幼児から大人迄含めて約参百名程集まり盛会裡に終了した。

本年は雨にたたられ一日であったが仕入れた品物は全部売り切れ、小雨模様だったが約百名程の集まりで役員全員の協力でとても楽しい、諭快な一日であった。

日本の伝統お盆行事の良い一日であった。『ここで皆でなれば』目標を定めて行けば何ごともできるのである。

これからも皆さんのご協力をお願い致します。十月十八日は町内会の敬老会でした。十月十八日で満七十歳以上の方(六十三名中二十一名)を招待しての福祉厚生部の計画で、女性部の手厚い心のこもった料理に参会者一同ご満悦であった。明治、大正、昭和と働き尽くした方であり、今日の日本を背負ってきて戴いたと思うと只々感謝の一言である。

又この日は　町内の北斗保育園児達二十名程がお年寄りを慰めに来てくれて、歌と踊りを、その他例年マジックを演じてくださる北光の佐藤さんが駆付けてくれてとても楽しい一刻であった。

町連協の目標である一人の不幸も見逃さなず安心して住める明るい町づくりを目指して推進して行きたい。そのためには全員が班長と共に自分の住んでいる班の方々を良く掌握して連絡を密にして明るい町づくりを目指して行きたいと念願しています。

この紙面で北斗北町内会の紹介の機会を戴き深く感謝申し上げます。

■町内会活動を考える■

今、町内会活動は、多くの課題を抱えている。

社会をとりまく諸現象は、否応無く日本社会を包み込み深刻な影響を与えていることは、否めない事実である。

それは、長引く不況、少子高齢化、核家族化、世代間の価値観の相違等々の現象が表出し、社会全体としても、その事に対応した課題対策を図る事が急務となっている。

こうした社会現象は、地域社会生活の小単位となっている町内会の組織や活動に多大な影響を及ぼしている事は、言を待たない。

更に第二次世界大戦後の、個人主義、自由主義の徹底は、ややもすれば誤った価値観を助長して来た。

すなわち、「自分さえ良ければ、他の人とのかかわりは関係ない」という考えである。

このような価値観は　益々町内会活動の意義や存在感を希薄化してきているのも、事実である。

これからの町内会活動のあり方、組織運営をどのようにして行けば良いのか。今、緊急の課題として取り組んでいくことが求められている。

◆「町内会」の存在の意義

（道新の記事より）

その存在感に疑問を持っています。町内のおつき合いは減り、高齢化や病気で役員のなり手がおらず、町内会の存在意義が無くなった。

町内会では、清掃、緑化活動は役員だけで汗を流し、交流行事活動も参加するのは、ごく一部、マンションの住民からは、無視されることもあり、役員になってもらうことも困難。

市の広報等の配布、青少年対策、敬老会の開催は、市から民間に依託すれば済むこと。町内会の役割は終った。

◆市内町内会から◆

●町内会各家庭の構成は、老人家庭の占める割合は高く今さら役員に、と言われても困る。

●町内会活動は、奉仕活動が中心、楽しい事は、自分の家庭で十分で出来る。

●役員をやりなさい。班長として働きなさい。うるさい事、煩わしい事ばかり、やめたい。

●役員に引退した人ばかり押し付けられる。退職後は、自由にしたい事もあるもっと若い方も役員になって、リードして欲しい。

こうしたご意見は、貴重な問題提起ではあるが、即解決できる対応策は、見つかりません。

しかしこのような問題を一つひとつ真摯に考え、少しでも前進させる事は、社会全体の責務であります。

では、本当に町内会の存在意義は無くなったのでしょうか。多くの方は、否、やはり町内会を大切にして行きたいと思っている事と考えます。

各町内会には、規約があります。

その中では、多少の表現の違いはありますが、町内会の目的を謳っております。

「会員が親和協力して近隣の友好と連帯感を深め、住み良い環境を作り会員の福祉を増進し、各種活動を通じて地域社会の発展に寄与する事を目的とする」誠に崇高で明確な町内会の存在意義を謳った文言であり、まさしく、この事の具現化こそ目指すべき指針であります。

◆これからの町内会◆

日本の社会においては、時代の変遷を経ながらも、一貫して地域社会の結びつきは強く、相互扶助を基本とした人間関係を築いて来た。

それは一人の人間の不幸を見逃す事なく隣近所の力を結集して助け合う心であり安心して暮らせる基盤となって来た。

現社会に、即適応出来ないが、行政の施策だけですべて安全、安心して暮らせるだろうか。

これ迄の美風を生かしながらやはり、行政と地域住民と連携し、相互補完関係を維持してこそ血の通った温かい人間生活を営む事ができると確信できます。

「町内会」は、多くの困難な課題を抱えながらも、粘り強く地域コミュニティを高め、地域住民の相互信頼関係を醸成して行く中で魅力ある「町内会」を構築して行く事が何よりも大切であると考えます。

編集後記

今年の夏は、天候不順である。八月の燃えるような太陽は、ついに姿を見せず氷雨の連続であった。幸い秋にはすっきりとした天候になり、「やれ、やれ」と言う気持を持った。

その安心生活をあざ笑う様な激震が北海道地方を襲った。

千歳地方は、幸いにして、割と災害に見舞われない。

「災害」をどこか他所事のように考える気持が、支配しているようにも思える。

今こそ、災害を現実の問題として捉え、その時、どう対応していくべきか、真剣に取り組む必要がある。その一助として「災害」を特集しました。

各町内会の話題の糸口になれば幸いです。

編集委員

鳴海二郎　伊藤栄太郎
畑中　盛　末岡　誠
吉成正雄　大野知之
塚原義孝

★事務局　小玉あけみ
水谷加寿子